

2018年(平成30年)8月29日(水)

# 東街区再開発で協定

三島駅南口

## 市とJVなど 21年度に着工

三島駅南口東街区の再開発事業について、三島市と事業協力者となるミサワホームを代表とする共同企業体(JV)、地権者らでつくる準備組合の3者が28日、事業協力協定を締結した。事業協力者の正式決定で再開発が本格的に動き出した。



協定書に調印する豊岡武士市長(左から2人目) 三島市役所で

合施設を2025年に「業費220億円」で、市完成させる計画。総事はうち61億円を負担す

る。事業者を公募し、同JVが4月に最優秀提案者に選ばれた。協定締結式には豊岡武士市長やミサワホームの磯貝匡志社長、準備組合の井上裕幸理事長らが出席した。豊岡市長は「1987年に構想が持ち上がった以降、長年の市の課題だった。三島の宝の湧水や文化をご理解いただいたうえで、市民に喜んでもらえる事業にしたい」とあいさつ。磯貝社長は「高齢者や共働きの子育て世帯が増える。医療、福祉、介護さまざまな機能が一体となったコンパクトシティ型街づくりを提案し、社会

の課題に取り組むのが私たちの最大のミッション」と話した。

協定締結を受け、来年度中に、都市計画決定を行い、2021年度に着工する方針。市民説明会を三島市民文化会館大ホール

(10月5日)などで計4回開く。

一方、市財政への負担や地下水への影響を懸念し、事業見直しを求めている「三島駅南口の整備を考える市民の会」の渡辺豊博代表は「市民軽視と訴えて

きたが非常に悔しい思い。提案とは別の新しい街づくりプランを示したい」と話した。  
【垂水友里香、石川宏】